

佐賀県研究成果情報（平成 23 年度）

北部ハイブッシュ系ブルーベリー「デューク」「スパータン」における接木栽培による樹冠拡大及び初期収量確保					
[要約] 北部ハイブッシュ系ブルーベリー「デューク」「スパータン」はラビットアイ系のホームベルを台木に接木を行うと樹冠拡大が早くなり、早期の収量確保に繋がる。					
果樹試験場・落葉果樹研究担当			連絡先		0952-73-2275 kajushiken@pref.lg.jp
部会名	果樹	専門	栽培	対象	ブルーベリー

[背景・ねらい]

県内各地で振興策目としてブルーベリーの新規開園が増加しているが、果実品質の優れたハイブッシュ系の品種は暖地では生育量が小さく、成園化に時間がかかる。そこで、樹勢の強いラビットアイ系のホームベルにハイブッシュ系の品種を接木することで、生育を促進させ、初期収量を増加させる栽培方法を検討した。

[成果の内容・特徴]

1. 北部ハイブッシュ系ブルーベリー「デューク」「スパータン」、南部ハイブッシュ系ブルーベリー「オニール」どちらにおいても、接木栽培の方が挿木栽培よりも樹勢が強く、シュート数も多い。(表1)
2. 定植後3年目の樹冠容積は北部ハイブッシュ系ブルーベリー「デューク」「スパータン」の方が、南部ハイブッシュ系ブルーベリー「オニール」よりも大きい。(表2)
3. 定植後2年目の収量は、北部ハイブッシュ系ブルーベリー「デューク」「スパータン」の方が、南部ハイブッシュ系ブルーベリー「オニール」よりも多い。(表3)
4. 北部ハイブッシュ系ブルーベリー「デューク」では、接木栽培の方が挿木栽培よりも定植後2年目の収量が多く、1果重も重い。(表3)

[成果の活用面・留意点]

1. デュークの接木苗は挿木苗と比較して新梢の発生数が少なくなるため、定植後に新梢を増加させる栽培管理が必要となる。
2. バークレーは北部ハイブッシュ系ブルーベリーの基準品種として挿木で植栽した。バークレーの場合、接木と挿木で生育に大きな差がみられないため、今回は接木での植栽は行っていない。
3. スパータンでは、挿し木苗が全て枯死した。掘りあげ調査の結果、ポット内の土壌にコガネムシの幼虫が確認された。接ぎ木苗では幼虫は確認されず、接ぎ木の場合ポット内全体に根が張っているため土壌表面が崩れにくく、幼虫の進入を抑えられたものと考えられる。

[具体的データ]

表1 ブルーベリーの繁殖方法の違いが及ぼす樹体生育への影響

系統	品種	繁殖方法	樹齡	樹高 (m)	樹幅 (m)	新梢数	シュート数	樹勢
北部	スパータン	接木	2年生	1.6	1.0	22.0	2.2	5.0
		接木	2年生	1.6	0.7	10.8	2.8	5.0
	デューク	挿木	3年生	0.7	0.5	31.0	0.0	2.4
南部	オニール	接木	2年生	1.5	0.7	18.3	2.7	5.0
		挿木	3年生	0.7	0.6	14.5	0.0	2.6

樹勢 5:非常に強い、4:強い、3:やや弱い、2:弱い、1:非常に弱い

表2 定植後3年目のブルーベリー各品種の樹冠容積

系統	品種	繁殖方法	樹齡	樹冠容積 (m ³)
北部	スパータン	接木	5年生	2.18
	デューク	接木	5年生	3.30
南部	オニール	接木	6年生	1.32

※樹冠容積 高さ×横径×横径×0.7 (横径は5カ所の平均値)

表3 定植後2年目のブルーベリー各品種の総収量と1果重

系統	品種	繁殖方法	樹齡	総収量 (g/樹)	1果重 (g)
北部	スパータン	接木	4年生	1966.1	2.2
	デューク	接木	4年生	3296.1	1.6
	デューク	挿木	6年生	997.2	1.0
南部	オニール	接木	5年生	813.9	1.6
北部	バークレー	挿木	5年生	443.1	1.7

[その他]

研究課題名：ブルーベリー、スモモ等新規品目の導入による中山間地域を中心とした魅力ある産地育成

予算区分：県単

研究期間：2007年度～2011年度

研究担当者：加藤恵、稲富和弘、児玉龍彦